市長定例記者会見　２００９年１月２７日

・日　時　　平成２１年１月２７日（火）午前１１時００分～

・場　所　　本館３階第１会議室

・記者数　　１５人

議題　　市制施行１２０周年記念式典について

（市長）

今日は前回の会見でも簡単に触れさせていただいたのですが、「市制施行１２０周年記念式典」の内容が決まりましたので、改めてご説明させていただきたいと思います。本市は明治２２年、１８８９年の１２月１５日に市制が施行されまして、今年で１２０周年目を迎えます。この記念すべき年を市民の皆さんとお祝いするとともに、本市がこれまで歩んできた歴史を振り返り、さらなる飛躍・発展を目指す機会にしてまいりたいと思います。そこで「市制施行１２０周年記念式典」を２月１４日土曜日に、総合コミュニティセンター体育館で開催させていただきます。今回は、合併後初めての記念式典となりますので、北条・中島地域の子どもたちにもアトラクションに参加していただくことになっております。また表彰につきましては、節目の年にいつも表彰させていただいている行政功労表彰、これは従前どおり、それぞれの立場でご活躍いただいている方々を表彰させていただきますが、これに加えまして新たな取り組みとして、本市の将来を思い真摯（しんし）な気持ちで日ごろから地道に活動を続けていらっしゃる２７１名の方々を、別途各地区からご推薦をいただきましたので、そのご功績に対し心からの感謝の意を式典で表させていただきたいと思います。本当にそれぞれの地域でいろいろなジャンルで知られざる地道な活動をされている方が対象となっております。またお配りしている資料にも添付させていただきましたが、郵便局株式会社四国支社では、「道後温泉本館」と「松山城」そして「坂の上の雲ミュージアム」の観光施設や北条・中島地域などの美しい風景をデザインしたオリジナルフレーム切手「松山市制施行１２０周年記念」を２月９日月曜日から、市内の各郵便局において９００円で販売する予定になっておりますので、ぜひ記念にご購入いただけたら幸いに思っております。オリジナルフレーム切手はこちらになります。この外側の木の枠ですが、ハートフルプラザ松山を通じ障害者の方々にお願いをして、作っていただいたものでございます。

詳細につきましては、担当部の方から説明させていただきます。

（質問）

定額給付金に関して、市の対応はどう考えているか。

（市長）
　まだ国会の状況が、最後どの辺りでどうなるのかが正直言ってまだこの段階で見えていません。しかし、年度内給付が行なわれるという前提でどのような作業が必要になるか、人数的にどういう配置が必要になるのか、組織をどうすべきなのかなど、事務作業が速やかに立ち上がれるように指示を出しています。そういう意味では内々の準備は進めています。

（質問）
　定額給付金について、改めて市長の見解を伺いたい。

（市長）
　政策としては個人的に言うならば趣旨は分かるのですが、生活支援なのか、景気対策なのか、その辺りのメリハリというものが今一つ見えないところが、どういう趣旨なんだろうというような受け止め方につながって、なかなか理解度が上がっていないのではないかと分析しています。ですからそこら辺りはやはりはっきりすべきなのかなと思いますし、年度内給付ということを国の方で決めるのであれば、現場の事務作業等々への配慮というか実態ですね、よく咀嚼（そしゃく）していただいて仕上げをしてもらいたいと思っています。国の混乱が地方の現場に非常に無理を生じせしめるというような状況は、ぜひとも回避していただきたいと以前から主張しているところです。

（質問）
　株式会社ジョー・コーポレーションが民事再生法の適用を申請したり、昨日は伊予鉄道株式会社が梅津寺パークの閉園を発表するなど、中小企業に限らず松山を代表する企業に変動が見えてきているが、改めてどう考えているか。

（市長）
　これは全体的な流れなのですが、例えば日本の国には個人金融資産が１，３００兆円あると言われています。実は他の国と比較して特徴的なのは、日本の場合その個人金融資産の中身において、株式の占める比率は１０％ぐらいなんですね。ということは１年前と比べると半分近く落ち込んでいますから、世界的には株式の保有率の高い国などでは、非常に大きな打撃をもたらして、個人消費が物理的に縮小しているという傾向があるのですが、日本の場合は１０％、そのうちの５％が下落しているというところでとどまっているので、今日本の国で起こっている消費形態というものは、やはり将来の不安感であるとか、今の空気というものにおいて萎縮（いしゅく）しているというのが実態だと思うんですね。その証拠に、ものによっては非常に売れている商品もありまして、それはキーワードで言えば節約関連商品や環境関連商品、節約関連商品などでは、例えば、今、前年比倍増の売り上げで活況を呈しているものには、土鍋であるとか、湯たんぽであるとか、弁当箱であるとか、貯金箱であるとか、こういったものは生産が追いつかないぐらいになっています。企業においても、ある服の小売店などは凄まじい勢いで売り上げを伸ばしているのですが、ほかのとは違って物理的な影響というものはあるんだけれども、他国との比較においては少ない。だからそこら辺

りをよく考えた上で、ビジネスなどを進める必要があるということが１点と、それから今回の産業で最もダメージを受けているのは、円高などの影響も出ている輸出関連産業なのですが、この輸出関連産業が、これまた他国との大きな違いがあって、決して技術力や製品の品質価値、これで厳しくなっているわけではなくて、金融不安というものが今の株式市場や資金調達の社債の市場、あるいは為替市場に影響をもたらして、技術とかそういうもの以外の要素で厳しい状況を迎えているということ。だからまだまだ日本の潜在的な技術力というものはあるという自信を、今こそ持つべきときなんだろうと思います。大変厳しい状況が続いていますけれども、この２つが日本にとって大きな力として、まだあるということを再認識しておく必要があるのではないかということを一層感じています。その上で地域の問題というものを考えていくということが大事になってくると思います。松山のサービス産業中心の状況を考えた場合に、やはり観光振興というものは非常に大きなてこ入れ策になってくると思っています。そういう意味では今年の年明けにスペシャルドラマ「坂の上の雲」の放送スケジュールが決定しましたので、放送が３年間続くこの機会をとらえて、多くの人たちが旅行に行くのであれば松山に行こうというぐらいの空気をどう作り上げていくかによって、松山の経済情勢というものは大きく変わっていくと思いますので、とりわけこの点に力を入れなければならないとの思いを強くしています。

（質問）

香川銀行、徳島銀行が経営統合を発表したが、四国の金融機関も経営基盤が厳しいと感じられる。これら金融統合の動きが県内で起こる可能性もある。年度末にかけて金融機関の債権処理なども進むと思うが、これまで市が取り組んできたこと以外で、何か新しい経済対策はあるか。

（市長）

行政でできることは限られています。この前も簡単に触れましたが、今は予算編成中なのでまだ正式には決定していないのですが、有効需要の創出、中小企業関係への資金融資制度の拡大と雇用というものに焦点を絞った側面的な支援策、それから働く環境というものをより一層強固にするための若い世代、例えば子育て支援などがそういうところに入っていますけれども、そういったところの充実、これらを複合的に組み合わせて、総合的にとらえていきたいと思っています。これだけの世界的な厳しい経済情勢ですから、各国が矢継ぎ早に思い切った経済政策を取り始めていますので、そこで需要というものが生まれてきます。これがどの程度の効果をもたらすのか、ちょっと読みにくいところがあるのですが、その辺りが一つの底からの脱出というようなことにつながる可能性はあると思いますので、その辺りの効果というものを注視しなければいけないと思います。日本の場合はそういう国々から比べるとちょっと遅かった感はありますが、ただ少なくともこの数カ月で今までの、デフレ経済下の中で続々と取り続けたという、わたしはこれは間違っていたんではないのかなと思うのですが、今の政権になってから方向が随分変わって来ていますので、まだまだ以前の状態に戻るわけではありませんが、今の情勢を踏まえたことでの対応に舵を切り始めているということは、地方にしてみれば少し良くなっている可能性があるなというように思っています。

もっと簡単に言えば、国の方がやるべきことをやらずに、しわ寄せを地方やいろいろな分野に振り分けるような政策が続いていたわけですよね。ようやくそれはまずいというので、削減した分を多少は戻して、自分のところも汗を流そうかなという動きが出てきているのかなと思います。まだまだ十分とはとても言えませんが、ようやくそういう流れが国民の気持ちをベースにして追い込まれた上で生まれてきているというのは、いい方向になりつつ、まだ十分ではないですよ。半歩も進んでないと思いますけれども、方向性が変わってきたことは好ましいと思います。もっと言えば、今まで何をしていたのということになるんですけどね。

（質問）
　青野令選手がスノーボード世界選手権ハーフパイプで１位になり、松山市出身のスポーツ選手として、また新しい快挙を成し遂げたことについてどう感じているか。

（市長）
　彼は毎回帰ってくるたびに訪ねてくれているのですが、非常に好青年で何よりもうれしいのは、雪のない松山の青年が雪のスポーツで世界の頂点に立つということは痛快の極みですね。予選のときに２位につけていましたから、何とか表彰台に上ってほしいなと思っていたのですが、まさか優勝、世界チャンピオンになるとは思いもよらなかったので、非常にうれしくニュースを聞いていました。と同時に現在のところ世界ランキングが第１位になっていますし、２位の渡部耕大選手も３位の藤田一海選手もいずれも愛媛県の選手たちなので、今の世界ランキングの１、２、３位が、愛媛県出身者が占めているということは驚異的な現実だと思います。それはただ単に今の瞬間の明るい話題だけではなくて、迫ってきたバンクーバー冬季オリンピックへの夢が大きくなって膨らんでくるメッセージだと思いますので、今から本当に楽しみです。特に青野令君は高校卒業になるのですが、松山に残りたいと言っていました。あくまでも松山にこだわってオリンピックを目指してくれると思いますので、みんなでぜひ応援してあげられるような空気を作ってあげたいと思っています。３０日にまた市役所に来る予定になっています。

（質問）
　かがやき松山大賞か。

（市長）
　はい。かがやき大賞です。